

社会福祉法人

豊心会

平成 29 年度 事業報告書

作成日：平成 30 年 5 月 18 日

作成者：武部 幸一郎

平成 29 年度事業報告【総括】

① 事業所別予算に対する実績

	平成 29 年度		平成 28 年度	
	予算達成率	稼働率	予算達成率	稼働率
特 養	100.3%	95.58%	101.6%	98.13%
ショート	102.9%	92.82%	100.4%	88.99%
デイサービス	97.2%	76.70%	105.7%	82.22%
居 宅	133.7%	延べ人数 531 人	136.1%	延べ人数 478 人
合 計	100.6%		102.3%	

② 運営

平成 29 年度は予算を達成した。

- ・特養の今期退所者は 19 名、うち看取りが昨年より 2 名多い 8 名となった。特に 1～3 月に多くの退所者（死亡 6 名、看取り 2 名、転院 1 名）があり、稼働率は低迷、現場も新規利用者への対応に追われた。

特養は入所基準が原則として要介護 3 以上となり、施設運営をする上で算定が欠かせない、日常生活継続支援加算取得の為、要介護 4 及び 5 の利用者は施設間で“奪い合い”のような状況となっている。平成 30 年 4 月 1 日時点での松江市内の特養は、地域密着型を合わせると 25（特養 18、小規模特養 7）であるのに対し、有料老人ホーム及びサービス付高齢者向け住宅を合わせた数は 60（有料 31、サ高住 29）となり、すでに特養を大きく上回っている。まずはそちらへ入居するという高齢者も増加したことを含め、特養の待機者数は減少傾向にある。

当施設においても待機者は減少傾向である。また、政策誘導により利用者層が更に医療的ニーズの高い方を含め重度化していけば、入退院及び入退所の間隔は、ますます狭くなり、予算管理は非常に厳しくなることはもとより、利用者の状態把握や職員の精神的負担も増大することが予測されることから、こうしたことへの対応に向けて、財務の健全化と業務の効率化を図りつつ、基本サービスの向上と自立支援介護の更なる推進をはじめとして、医療機関との連携強化、新たな顧客層の利用拡大に向けて体制を整え、昨年を引き続き「選ばれる施設・サービス」となる必要がある。

深刻な人材不足となっている介護業界の中で来年度に新規事業を控え、人材の確保とやりがいを感じる教育体制や働きやすさを実感できる労働環境整備に注力し、魅力あるサービス、職場であることを、しっかり広報していく。

次頁へ

【資料】(H29.10 松江圏域老施協調査より)

■松江圏域(保健所関係では安来も含む)のベッド数

①特養 1586 床 老健 894 床 軽費 550 床 養護老人ホーム 160 床
有料老人ホーム 930 床 サービス付き高齢者住宅 854 床

松江圏域 特養 1586 床(松江市 1264 床)

有料老人ホーム + サービス付き高齢者住宅 1784 床

※ベッド数では逆転している

■現在の松江市内の特養の状況

利用率状況 H24 平均 97.7% H28 平均 88.5% (25 施設)

松江市では 1264 床の特養ベッド数があり 88.5%の稼働率ということは
年間 145 人分の定員が稼働していないことになる

■稼働率低下の主な理由

①制度改正によるもの

2015 年度から入所者を原則として要介護 3 以上の高齢者に限定したことや、
軽度者を多く受け入れていると加算を算定できず、十分な報酬が得られないこと
で経営が悪化することも要因とみられる。貴重な介護資源が効率的に使われてい
ないのではないかと?

②担い手不足によるもの

慢性的な人材不足から、一部ユニットの閉鎖や開業できない事業所ができており、
松江市内の施設の約 75%が人材不足を訴えている状況。

※国による「働き方改革」による影響

「24 時間 365 日を支えるスタッフの確保ができない」

ハローワークより最近の求職者は「レクは嫌/送迎は嫌/土日休み

早番遅番は嫌/見守りだけがいい」など所謂、売り手市場となっており、現場の求
める時間帯に働ける人材が不足している。

・ショートステイでは、昨年度から比較し、稼働率が上昇、9割台とした。空床利用も実施しながら、他施設が断った利用者の受入、点滴・インスリンへの対応、夕方退所後の入所や、土曜・祝日も送迎に対応した。こうした取組が定期利用者を増やし、その利用者の状態が安定していることや、定期利用者の重度化による利用の増回、デイサービス利用者のショート利用等が安定した稼働率を維持できた要因と考えられる。

・デイサービスは、平成27年度より定員を20名から18名の地域密着型通所介護へ移行し、併せて土曜営業を開始した。28年度には土曜営業も安定し、稼働率は27年度の67.62%から82.22%へ上昇したが、平成29年度は登録者の約4割である15名が利用を終了（死亡6名、他施設への入所7名、入院2名）し、新規利用者の獲得が追いつかず、稼働率は前年度と比較し、低迷した。

・居宅介護支援事業所は、年度当初44名（介護29名、支援15名）であったが、3月41名（介護31名、支援10名）となった。モニタリングを丁寧に行い、サービス調整や緊急時の対応等、事業所や主治医と連携しつつ、今後もきめ細かな支援を行っていく。（配食サービスに関しては別紙参照）

③ ケア全般

特養は利用者の主体性を尊重した「自立支援介護」の提供へ向け、各ユニットで対象者を決め、1年間取組みを行った。2か月に1度、経過報告書を提出し、今後どのように進めていくかを検討した。また、平成29年3月には、1年間の取組みについて発表会を行い、問題点・課題を見つけることができた。自立支援に向け、利用者1人ひとりが望む目的ある生活を提供し、毎日がその人らしく生活を送っていただけるようにADLの自立の改善をおこなうよう来年度に繋げていく。

【研究発表】

11月8日に島根県老人福祉施設協議会主催の研究発表（くにびきメッセ）で自立支援介護に関する特養での取組を発表した結果、今年度8月に広島市で開催される中国大会へ選出された。私たちの取組が高く評価されたことを、自信につなげつつ、更なるサービス向上と職員のモチベーションアップにつなげていく。

10月28日に松江赤十字病院主催で開催された医療従事者スキルアップセミナーに管理栄養士より「高齢者の咀嚼・嚥下機能を考慮した食事の検討」について発表。在宅～特養までの食に対する支援及び配食サービスに関して紹介し、好評を得た。

● 口腔ケア

H24年6月より松浦Drを招き、基礎研修を開催、同年7月から歯科衛生士の個別ケア指導を開始。現在、定期的な個別指導を継続して行っている。誤嚥性肺炎による入院は平成29年度3名であった。総義歯の方については、口腔内が清潔に保たれ適切にケアできているが、自歯のある方は、歯間等に汚れがあり、不十分な点もあることから、歯科医師、介護職員、看護師間で連携して継続していく。

●看取りケア

平成 29 年度は 8 名の看取りケアを実施した。毎回、デスカンファレンスを行い、気づいた事・感想を多職種で共有し、終末期において、利用者・家族が望むように囑託医との連携の下に、多職種と協働し、チームケアで対応していく。また、研修を行い、看取り介護についての意識・行動を再確認できた。引き続き、利用者の、過去・現在・未来を知り「その人らしい生活の支援」を行いながら、看取りケアの向上につなげていきたい。

④ 感染予防

平成 29 年度は大きな感染症の蔓延はなかった。初動対応と情報共有、共通認識のある対応が十分でなかった反省をふまえて、マニュアルを再作成し感染予防と感染拡大防止に向け、取り組んだことも要因のひとつと考えられる。

⑤ 防災

平成 29 年度も火災や土砂災害等に関する定期訓練を実施しつつ、これまで震災編のみであった BCP を、火災・土砂災害・風水害・原子力・雪害や感染症といったあらゆる事態に対応可能とする BCP とするため、BCP 検討会を立ち上げ、策定に取り組んだ。

文字だらけで分かりづらいマニュアルをフローチャートや表を多用し、色を分け、視覚・感覚的に理解できるよう、ビジュアル化された BCP を策定。平成 30 年 5 月に完成予定。今後 BCM の策定に取り組む。

また、島根県が主宰する、原子力災害に関する避難訓練に参加。午前中に業者による陽圧化装置の取扱研修を実施し、午後より原子力災害への初動対応、施設の陽圧化（アララベンチの稼動・養生等）について訓練し、各自がマニュアルをもとに緊張感を持って取り組んだ。視察をいただいた県庁担当課職員からも、大変良い評価をいただいた。

平成 29 年度は災害時相互援助協定を締結している寺津自治会との連携が十分でなかった反省をふまえ、訓練等の視察について連絡し、地域と共に災害に備える。

⑥ 苦情（0件）

平成 29 年度の苦情は全事業所を通じて 0 件であった。各スタッフがサービス向上へしっかり努めたこと、グループウェアを導入し、情報の共有強化を図ったことが、苦情ゼロへつながった要因のひとつであると考えられる。

しかし、表面化していない事案がある可能性や、誤薬に関する事故が複数件発生した事実等を真摯に受け止め、基本的業務である、報告・連絡・相談の徹底や、接遇・倫理面の向上等をふくめ、よりよりサービス提供に向けて組織全体で取り組んでいく。

⑦ 地域交流・連携

本年度も公民館・社会福祉協議会・民生児童委員協議会・福祉推進委員・ボランティアの方々をはじめ、地域住民の皆様に行事等を通じて様々に交流ができた。（地域における公益的活動等に関する報告参照）

地域との福祉的なつながりや医療機関等との連携強化を含め総合的に地域とのつながりを深めることのできた 1 年であった。

地域における公益的活動等に関する報告

●出前講座の昨年度実績

平成30年3月14日 西谷町ミニデイサービス 参加者25名

→ 健康体操・相談窓口

平成30年3月12日 黒田西原なごやか会 参加者15名

→ 高齢者施設選び・配食サービス

平成30年3月2日 古江地区社協 家族健康講座 参加者70名

→ 高齢者施設選び

平成29年9月20日 富原ひまわり会 参加者25名

→ 健康体操・高齢者施設選び

平成29年7月27日 朝日が丘団地 ひだまりの会 参加者30名

→ 健康体操・栄養講座・配食サービス

平成29年6月11日 西谷上組縁がわカフェ 参加者15名

→ 健康体操・相談窓口

※平成29年9月17日 蔵京町内会ミニデイ(参加予定者30名)は
台風により中止

実施回数6回 参加者総数180名

内、健康体操4回、高齢者施設選び3回、栄養講座1回(配食2回)

●アンケート調査より

参加者の平均年齢77.8歳 男女比 男17.5% 女82.5%

満足度 92% (“満足”または“とちらかといえは満足”と回答した割合)

困っている事 独居による話し相手や生活上の負担、買い物、雪、施設の入所待ち
膝・腰や胃の痛み、食欲不振、家族の介護、将来の介護について

出前講座への要望 繰り返し聞きたい、わかりやすい実例を知りたい、急変の対応
あんまさんに来てほしい、料理の話など

●職場体験学習の昨年度実績

平成 29 年 3 月	高校生インターンシップ	1 名
7 月	松江東高等学校 職場見学	17 名
7 月	松江農林高等学校 職場体験	33 名
8 月	高校生インターンシップ	1 名
8 月	高校生ボランティア活動	1 名
9 月	島根大学の介護体験	1 名
9 月	湖北中学校 職場体験学習	2 名
計		56 名

●地域の教育機関との交流

平成 29 年 7 月	古江幼稚園さんとの七夕会	11 名
10 月	古江小学校さんとの交流会	38 名
12 月	湖北中学校さんとの交流会	12 名
計		61 名

福祉体験、交流会の合計 117 名の参加

●社会福祉法人等利用者負担軽減制度関係

利用者負担軽減額		¥3,189,995
内訳	補助金申請額	¥1,114,216
	施設負担分	¥2,075,779

平成 29 年度 配食サービス事業報告

在宅の高齢者を訪問し、定期的に栄養バランスの摂れた食事を提供することにより、ひとり暮らし等の高齢者の安否を確認するとともに、疾病及び介護予防対策として健康の維持に付与し、住み慣れた地域で安心して生活が維持できるように支援することを目的とする。

平成 27 年度 10 月 1 日から開始。
月曜日から金曜日の昼食の配達、月曜日から土曜日のデイサービス、ショートステイ利用後の持ち帰りを実施

平成 29 年度 10 月日から、365 日昼食及び夕食の配達を開始。

独居や日中独居で家事をすることが困難な方や療養食を家族様が作ることが困難な方が利用されている。

また、家族様が不在でご飯が作れないときのみ利用される方、ヘルパーさんが入る日以外は利用する方がおられる。

土日の配達をしていない他業者の弁当と併用をして利用されている方もいる。

明翔苑のデイサービス、ショートステイ、居宅支援事業所のサービスを利用していない方もおられる。

お弁当の配達で自宅に訪問した際には、安否確認・話し相手・昼食後薬の配布・お弁当の温めを行なっている。

主食はいらないと言われ、主食なしで配達をしている方もおられる。

今後の予定

- ・配食のチラシを新聞の折り込みに入れ、新規利用者を獲得する。
- ・食の自立支援事業実施予定。

平成29年度 配食サービスについて(実績及びニーズ)

	H29.4月	H29.5月	H29.6月	H29.7月	H29.8月	H29.9月	H29.10月	H29.11月	H29.12月	H30.1月	H30.2月	H30.3月
昼(個)	87	102	115	141	111	89	116	105	123	178	172	212
夕(個)	68	57	52	70	38	31	87	94	129	198	181	224
合計(個)	155	159	163	98	149	120	203	199	252	376	353	436
月の目標数(個)	450	500	480	470	500	470	620	600	620	620	560	620
稼働率(%)	34.4	31.8	38.1	20.9	29.8	25.5	32.7	33.2	40.6	60.6	63	70.3
金額	¥95,000	¥97,700	¥11,200	¥128,700	¥91,800	¥74,600	¥128,300	¥123,950	¥155,300	¥230,400	¥215,200	¥267,200

10月から夕食の配達開始。
月の目標数 昼10食、夕10食

・おかずのみ欲しいと言う依頼が何件かあった。

・600円は高いと言う声がある。

・松江市の食の自立支援事業は価格が安いいため、そちらに乗り換えられる方がおられる。(365日昼、夕 410円、副食のみは360円)
→来年度から食の自立支援事業実施予定

・夕食の配達の際に朝食時の服薬確認を行なっている。

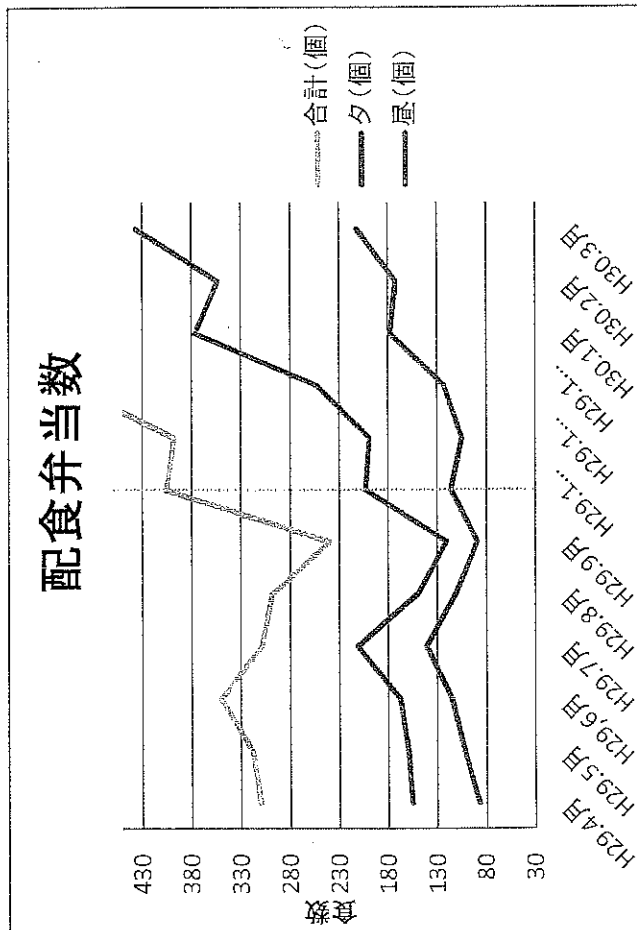
→ヘルパーを入れなくても良くなったとの声あり。

・弁当のあたため、箸・お茶などのセッティング、見守りを行なっている。

・12/10松江市橋北地域(約12,000件)新聞折り込み
その後5件の新規獲得。

<今後の見通し>

・平成30年度から市の自立支援事業の参加



平成 29 年度事務業務報告書

1.本部事務

(1)理事会等の運営、監事監査執行のための事務業務を滞りなく実施しました。

平成 29 年度は、次のとおり理事会 4 回を開催しました。

① 第 84 回理事会 平成 29 年 5 月 26 日 (金)

特別養護老人ホーム 明翔苑 3 階 談話室

(審議事項)

- ・平成 28 年度社会福祉法人豊心会事業報告並びに収支決算について
- ・定時評議員会の招集について
- ・理事・監事の選任について
- ・社会福祉法人豊心会パート職員の任用に関する規程の一部変更について
- ・社会福祉法人豊心会嘱託職員の任用に関する規程の一部変更について
- ・社会福祉法人豊心会明翔苑就業規則の一部変更について
- ・その他

(報告事項)

- ・理事長の職務執行状況について
- ・競合、利益相反取引について
- ・専決処分について

② 第 85 回理事会 平成 29 年 6 月 28 日 (水)

特別養護老人ホーム 明翔苑 3 階 談話室

(審議事項)

- ・理事長の選定について
- ・社会福祉法人豊心会経理規程及び経理規程細則の一部変更について
- ・その他

(報告事項)

- ・専決処分について

③ 第 86 回理事会 平成 29 年 12 月 22 日 (金)

特別養護老人ホーム 明翔苑 3 階 談話室

- ・第一次補正予算案について
- ・社会福祉法人豊心会定款細則の一部変更について
- ・社会福祉法人豊心会役員等旅費規程の一部変更について
- ・社会福祉法人豊心会明翔苑就業規則の一部変更について
- ・社会福祉法人豊心会パート職員の任用に関する規程の一部変更について
- ・社会福祉法人豊心会嘱託職員の任用に関する規程の一部変更について
- ・社会福祉法人豊心会育児・介護休業規程の一部変更について
- ・社会福祉法人豊心会経理規程の一部変更について
- ・社会福祉法人豊心会資金運用規程の一部変更について
- ・社会福祉法人豊心会職員旅費規程の一部変更について
- ・その他

(報告事項)

- ・平成 29 年度実施指導監査の実施結果について
- ・島根県営住宅 ((仮称) 松江市大輪団地) の進捗状況について
- ・専決処分について

④ 第 87 回理事会 平成 30 年 3 月 23 日 (金)

特別養護老人ホーム 明翔苑 3 階 談話室

- ・最終補正予算案について
- ・平成 30 年度事業計画、予算案について
- ・平成 30 年度の理事長の報酬について
- ・定款変更について
- ・第 2 回臨時評議員会開催について
- ・社会福祉法人豊心会職員旅費規程の一部変更について
- ・その他

(報告事項)

- ・平成 29 年度社会福祉法人の指導監査結果について
- ・専決処分について

平成 29 年度は、次のとおり監事監査を実施しました。

① 監事監査 平成 29 年 5 月 19 日 (金)

特別養護老人ホーム 明翔苑 1 階 談話室

- ・平成 28 年度資金収支決算書、財産目録及び貸借対照表等について
- ・その他

平成 29 年度は、次のとおり評議員会 2 回を開催しました。

① 第 1 回定時評議員会 平成 29 年 6 月 28 日 (水)

特別養護老人ホーム 明翔苑 3 階 談話室

(審議事項)

- ・平成 28 年度事業報告、決算について (社会福祉充実残高の算定結果)
- ・理事・監事の選任について
- ・役員及び評議員の報酬等支給基準について
- ・役員の報酬について
- ・その他

(報告事項)

- ・平成 29 年度事業計画、予算案について

② 第 2 回臨時評議員会 平成 30 年 3 月 23 日 (金)

特別養護老人ホーム 明翔苑 3 階 談話室

(審議事項)

- ・最終補正予算案について
- ・平成 30 年度事業計画、予算案について
- ・平成 30 年度の理事長の報酬について
- ・定款変更について
- ・その他

(報告事項)

- ・平成 29 年度社会福祉法人の指導監査結果について

(2)本部運営に係わる各種登記手続きを滞りなく実施しました。

2.事業管理

(1)年度事業計画・評価・事業報告を計画的に取りまとめ、事業の円滑化推進に取り組みました。

3.財務管理

- (1)収入の確保に向けて、介護報酬改定の加算要件等の点検に取り組みました。
- (2)財務にかかわる基本的な知識の確認・新会計基準方式習得に取り組みました。
- (3)財務諸表等電子開示と社会福祉充実財産の算定等を行いました。

4.人事労務

- (1)職員の欠員によるサービスの低下が生じないように、関係機関と連携し、速やかに欠員補充に取り組みましたが、欠員補充の強化に向けて、一層取組めます。
- (2)労務関係の必要な情報、雇用情勢などを整備し、職員が働きやすい環境作りを推進に取り組みましたが、一層取組んで参ります。

5.庶務管理

- (1)事務業務関連の書類について、適切に管理運用できる環境整備を推進に取り組みました。
- (2)必要に応じて、行政等の関係機関へ速やかに調査報告・届出を行うとともに届出書類の電子化を推進し、届出業務の省力化・効率化に取り組みましたが、今後、一層取組めます。

6.衛生管理

- (1)健康診断の結果で要精険が出た方への再検査の要請及びチェックを行いました。
- (2)日常の健康管理や居住環境の向上に努めるとともに、施設内にインフルエンザウイルス等が持ち込まれないように、職員やご面会者の手消毒や健康チェック等に取り組みました。

7.設備管理

- (1)建物・機械整備について、有資格の専門業者による定期法令点検を実施するとともに、必要に応じ補修し、建物・機械整備の安全性や本来機能を維持に取り組みました。
- (2)施設内におけるエネルギー使用量(暖房・水道光熱費等)の調査を実施し、省エネルギー化・経費節減化に取り組みましたが、さらに、取組んで参ります。

8.安全対策

- (1)年間防災訓練計画を設定し、夜間・昼間を想定した避難訓練等を実施しました。
- (2)業務内外を問わず、車輛安全運転・交通事故防止の周知・徹底の強化に取り組みました。

9. その他

- (1)情報の共有等に適したグループウェアの導入やスマートフォン対応型リクルートサイトの新規開設等を行いました。又、求人活動資料の作成、学校訪問・就職ガイダンスへの参加・採用活動に取り組みました。
- (2)環境整備として働きやすい職場環境作りを推進するため、働き方検討委員会を立ち上げ、子育て支援や業務改善等魅力ある職場とするための制度等を話し合い、その一つとして、1時間単位での有給取得制度を取り入れました。

平成29年度 事業報告(施設入所)

重点施策

1. 自立支援に向けての取組み強化は、各ユニットで対象者を決め、1年間取組みを行った。2か月に1度、経過報告書を提出し、今後どのように進めていくかを検討した。年度末には、1年間の取組みについて発表会を行い、問題点・課題を見つけることができた。自立支援に向け、利用者1人ひとりが望む目的のある生活を提供し、毎日がその人らしく生活を送っていただけるようにADLの自立の改善をおこなうよう来年度に繋げていく。
- 2 看取り介護の取組みは、今年度は8名あった。毎回、デスカンファレンスを行い、気づいた事・感想を多職種で共有し、終末期において、利用者・家族が望むように嘱託医との連携の下に、多職種と協働し、チームケアで対応していく。また、研修を行い、看取り介護についての意識・行動を再確認できた。
- 3 苑内行事を始め、地域行事の参加等、地域の方々との交流を図ることが出来た。また、出前講座を通じて、地域の方への施設の役割部分の理解等、連携を行えた。

—各部門—

生活相談員

- ・今期の退所者は19名、看取りは8名と昨年度より2名増加。
- ・要介護4・5の方の入所の方に関しては、入所から1年未満での死去による退所者が3名、転院1名、自宅での看取り1名。
- ・1月～3月の退所者は9名（看取り2名 死亡6名 転院1名）前年度（7名）と同様、年度内での入所に時間がかかった。
- ・入院に関して1名の方は入所から退所までの10ヵ月の間、約8か月は入院という状況。また、11月以降は長期入院者が多くみられ、稼働実績が低迷となった。
- ・入所申し込みがある際、実調は行ってきたが、待機者（実調済）の他施設入所が早くまとまった人数を持っての入所判定会議は行えなかったが、空床が出来た際施設職員での判定会議はおこなった。
- ・ケアカンファレンスに参加し、ご利用者の思いを受け止め、良き代弁者になるよう努めた。
- ・営業活動として、病院・居宅関係に訪問を行い馴染みの関係は築けてきており、定期的に入所の相談の問い合わせがあった。

- ・認知症サポーター養成講座を行えるよう認知症キャラバンメイト養成講座を受講した。

介護支援専門員

- ・ご利用者様の自立支援に向けてADL、健康状態、生活全般の観察、日々の状態変化を把握してケアプランの作成を行った。しかし、サービス内容を含め、介護職員に浸透したところまでには至らなかった。
- ・定期的なカンファレンスは、他職種が集まり連携が出来るように開催が出来た。
- ・介護保険更新手続き代行はスムーズに行えることが出来た。要介護2になられる利用者もおられ、特例入所になる事例もあったが、手続きが行えた。
- ・ケアマネが担当する出前講座の依頼はなかったが、地域に目を向け、参加は出来た。
- ・新規利用者様に関する情報収集等、まだまだ不十分な所があった。

看護部門

- ・日々、利用者の健康管理を把握し、異常があれば嘱託医に報告し、早期発見・早期治療に心がけ対応した。
- ・カンファレンスを行い、他職種と連携を図り、適切な処置・ケアを行う事ができた。
- ・インフルエンザ等の感染症に対しては、予防も含め今年度は拡散抑制に努めることが出来た。
- ・今年度の看取りケアは10名おられ、他職種と連携・カンファレンスを行いながら対応することが出来た。また、デスカンファレンスにおいては、個々の振り返りや反省点・良かった点を話し合い、次に繋げることが出来たと思う。
- ・研修に関しては、「感染について」、全職員を対象に研修を行った。また、看護師においては、年間を通して「褥瘡予防」について取り組みを行い、事例発表を行うことが出来た。
- ・他職種との連携・協力の部分に関しては、まだまだ改善することも必要なこともあり、来年度に繋げていきたいと思う。

機能訓練部門

- ・個別の機能訓練を行うことは出来ていなかったが、生活リハビリとして、他職種連携をして行った。

介護職重点目標

利用者の生活や好みを尊重し、利用者主体の生活と自立支援へ向けて必要なケアの提供を行う。

《各ユニット部門》

【あさがおユニット】

- ・24Hシートについて、前期は細かな更新は出来ていましたが、途中からは24Hシートに対する意識が低かった為か職員間での口頭で済ます事が多く、24Hシートに落とし込む事が遅くなっていました。年間通してケアの統一はある程度はできていたものの24Hシートシートを活用してではなかったように思います。

【すいせんユニット】

- ・本人の意思に沿ったケアが出来ていた部分もあるが、介護士の都合で意思に沿っていないケアもあったと感じています。
- ・外出する機会も増えてきたが、すぐの対応は出来ない事もあったので、来年度はすぐに対応出来るようにユニット内で話合っていきたい。

【つばきユニット】

- ・下剤に頼り、自然排便をあまり促せなかった。運動を継続的に続けられなかった部分もあったと思う。
- ・環境整備について、ホール・居室の掃除が上手くいっていなかったところがあった。シーツ交換時、掃除機はかけていたが、洗面台の汚れをしっかりと綺麗に出来ていなかった。
- ・利用者のペースに合わせたケアが行えたが、時折、職員主体のペースになったりしていたこともあった。

【ぼたんユニット】

- ・24Hシートの作成および随時更新が出来ず、24Hシートの活用が出来なかった。
- ・自立支援介護の対象者には本人のやりたい事等、聞きだし行動はできた。それ以外の方には少しずつだが、職員同士で話し合い、外出等、本人のやりたい事が出来ていた。

【ゆりユニット】

- ・顔なじみの関係づくりが出来、利用者様の出来る事はして頂き、残存機能を生かす介

護が出来たと思う。また、利用者様の変化に応じて、利用者家族様と満遍なく現状や今後の話をする機会が出来て、ユニットとの信頼関係をより強く築けて良かった。

- ・日々の生活を自分らしく送ってもらおうと言いつつも、場合によっては、職員のペースで(グレーゾーン)してしまっていることもあり、過剰な介護や急がず様な行動をしているのは否めない。また、本人様のやりたい事を聞き出すことが出来ず、もっと家族様・本人様より情報を引き出したいと思った。
- ・QOL向上の為、毎日の日課づくり、余暇活動を増やしていきたい。多少の変化でも、介助方法の見直し、タイムマネジメントを行い、業務改善に繋げていく。

【ひまわりユニット】

- ・こまかく24Hシートを書いた事から、個々に応じた対応が出来た。
- ・24Hシートの活用方法をユニット職員間で理解できていなかった。
- ・一部の家族様には関わりが出来ていたが、全く会えない家族様に対して、何も出来ていなかった。

平成 29 年度 事業報告 (短期入所)

重点目標

- 1、医療的ケアの受け入れや対応については、インスリン注射が必要な方の受け入れを 4 名と、利用中に点滴治療が必要になった方には主治医の指示のもとに点滴をおこなった。
利用者の状態変化があった時は、主治医に報告し薬調整を行いながら様子観察を行っていった。
- 2、今年度の看取りの方の受け入れはなかったです。が、在宅での生活が困難で施設待ちの方の受け入れを 5～6 名行った。長期利用の方は、主治医が施設に往診に来られる時や受診される時に状態報告を行い、他職種との連携を行った。

<各部門>

生活相談員

- 1、定期的営業をおこない、居宅のケアマネジャーや病院の相談員と馴染みの関係は築くことができた。特に毎月居宅からの新規利用者の依頼が 2～3 名はあり定期利用に繋がることができた。
- 2、カンファレンスに参加し、利用中の様子を他事業所に報告することができた。
- 3、新規利用者の情報をユニット・看護師に報告することは出来ているが、常にぎりぎりの報告をすることが多かったので、来年度は余裕を持つての報告をするようにしていく。

介護支援専門員

- 1、居宅のケアプランを基に計画書を作成した。

看護部門

- 1、利用者の健康管理・ユニットからの情報把握をし、異常があれば主治医に報告し早期発見・早期治療に心がけ対応を行った。
- 2、他職種と連携を行いながら適切な処置やケアを行った。
- 3、インフルエンザ等の感染症に対し、予防を含め今年度は拡散抑制に努めることができた。
- 4、インスリン注射の方や主治医の指示での点滴が必要な方等の対応を行うことができた。

- 5、今年度は看取りの受け入れはなかったが、今後の為に体制を整えていく
- 6、研修については、感染についての研修を全職員を対象に行った。
- 7、他職種の連携・協力の部分に関しては改善する必要なこともあるので来年度に向けて話し合いながら繋げていきたい。

機能訓練部門

- 1、機能訓練に対しての要望はなく、生活の中でのリハビリを行った。
(車椅子・トイレからの立位、ベットから車椅子・車椅子からベットの移動等の見守りを行った)

さくらユニット

- 1、他職種と連携を取りながら、医療が必要な方のケアはできていた。
- 2、ユニット会議で毎回カンファレンスをすることはできなかったが、状態の変化があった時はその度に情報共有が他職種できていた。
- 3、自立支援のついての意識がうすく、その人らしいケアをしていく為にどうしたらいいか分からないまま個人ノート作成までいたらなかった。

平成29年度通所介護・介護予防通所介護事業報告

〈重点目標（相談員・介護）について〉

・通所介護計画書を基本として、利用者が希望するプログラムを自ら選択しながら実行する中で、利用者の生活機能レベルが維持出来る様に自立支援の強化を目指しプログラムを実施しました。従来と比べ個々が実施するプログラムが細分化され、機能訓練、創作活動、脳トレーニング（テーブルゲーム）のグループに分かれて実施し生活機能レベル向上に取り組み、現在の介護度の維持（日常生活自立度、認知症レベル）ができ、健康に在宅で生活しながらデイサービスの継続利用が行えました。

○プログラム実施報告

※脳トレーニング

・間違え探し、計算問題、クロスワードを実施し、取り組み当初は回答する時間が多く係る利用者も、月日を重ねる度回答がスムーズに行え、問題が解ける喜びを得ることにより利用者個々の認知能力向上に繋がりました。

※機能訓練

・平行棒を使用し、機能訓練指導員の指示のもと立位訓練・歩行訓練を中心に実施しました。上下半身筋力強化に繋がり、移動動作の機能維持が出来る事により、ADL（生活動作）低下防止に繋がりました。

※創作活動

・塗り絵、ちぎり絵、カレンダー作りを実施し、完成品をデイホール内へ掲示したり、作品を自宅に持ち帰ったりすることで利用者の作品を完成させる達成感を感じさせ、意欲の向上になりました。

・H29年度は現在のプログラム活動を継続しながら、利用者の機能レベルの向上に努め、一日のプログラム表を作成し、「いつまでも元気で生活する。」という思いを持ち続けられるように支援を目指します。プログラム表については3か月に1回検討会を実施し見直しを行います。

〈今後の活動について〉

・29年度より介護予防（要支援1・2）の利用者は総合事業に移行となるため、通所型サービスAを実施し、生活機能維持向上を主とした短時間のサービスを実施します。

・30年度の制度改正を視野にいれながら、認知症対応、中重度者対応、機能訓練プログラムを強化し、地域に選ばれる様に努めます。

・医療ケアが必要な中重度者（要介護3以上）の受け入れが少ない為、医療スタッフと

連携しながら医療ケアのサービスを拡げ、中重度者を多く対応できる体制を整えていきます。

〈地域交流について〉

・地域の方との交流については、マジックショー、コンサートを実施し交流を行うことができました。運営推進会議を実施し、地域、家族と意見交換をしました。

〈居宅との連携について〉

・新規利用者登録にむけて、現在行うプログラム、サービスを掲載した便りを各居宅事業所、地域へ配布しPR活動を実施しました。

〈明翔苑デイサービスプログラム内容〉

※脳トレーニング

・間違え探し・計算問題・俳句・唄作り

※機能訓練

・立位訓練・歩行訓練・手足運動（健康ボール使用）
・棒体操、セラバンド体操・口腔体操

※レクリエーションゲーム

・輪投げ、ボーリング、風船バレー、ベンチサッカー、ビンゴゲーム
将棋、囲碁、カラオケ

※創作活動

・ちぎり絵、カレンダー作り、塗り絵、裁縫

※その他

・おやつ作り（毎月開催）・選択食（月2回開催）・外出（買い物、花見）
・新年会、敬老会、地域・学校との交流会

〈稼働率〉

・別紙参照

〈平均介護度〉

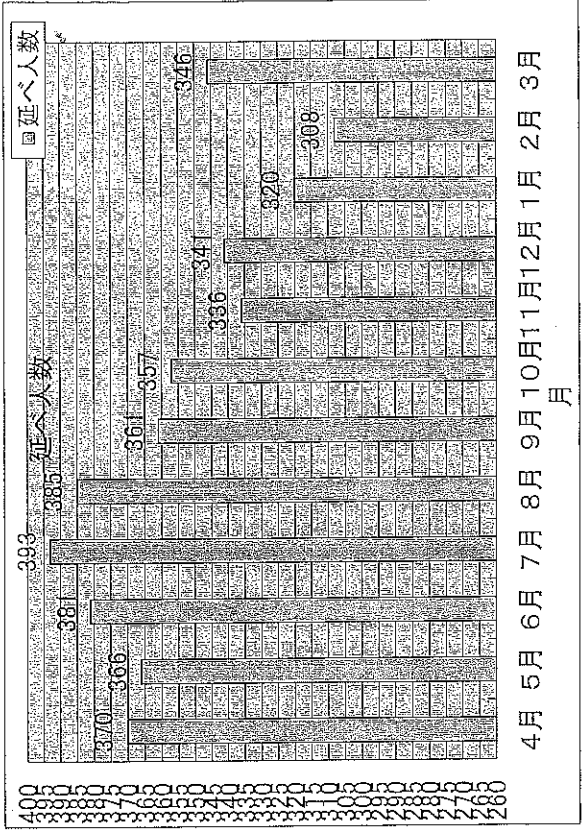
1. 6

以上

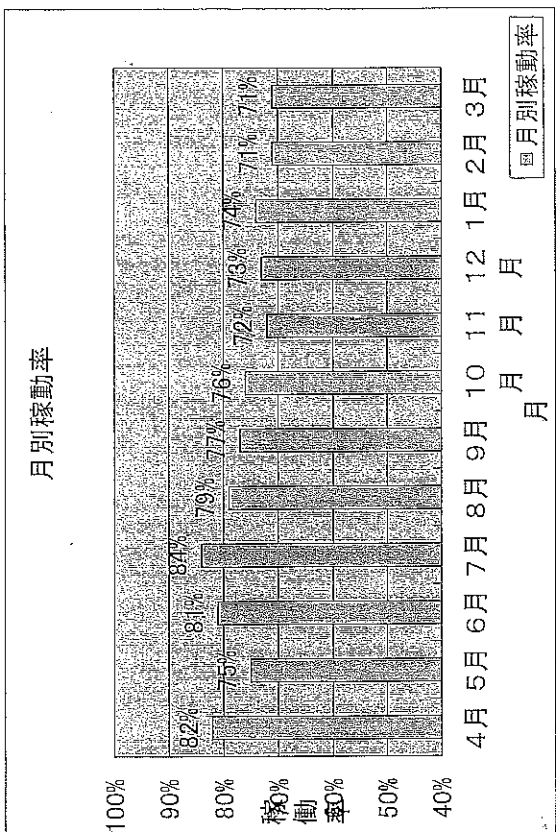
平成29年度 デイサ—バス利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1日	16	14	15	15	15	14	15	15	12	12	12	13
2日	9	14	14	16	15	15	15	9	18	17	13	14
3日	14	13	13	16	16	16	13	11	13	17	17	16
4日	15	13	14	14	16	15	15	16	12	11		
5日	16	11	14	16	15	13	12	12	13	12	9	15
6日	14	16	11	16	13	13	14	11	15	18	11	14
7日	14	17	17	17	15	12	17	12	13	12	11	12
8日	15	14	13	15	13	14	16	16	13	12	7	12
9日	14	13	16	16	13	15	15	12	18	13	10	11
10日	14	17	17	16	11	16	13	12	13	13	13	15
11日	13	15	16	16	12	15	15	14	12	11		
12日	14	13	14	16	14	10	11	12	13	13	11	12
13日	16	14	13	15	15	15	14	12	12	16	11	12
14日	13	15	15	16	13	12	17	11	13	14	14	14
15日	16	13	14	12	9	14	12	13	12	12	13	13
16日	12	14	14	17	17	16	13	11	16	13	14	14
17日	15	15	14	14	12	14	11	11	11	14	16	14
18日	14	13	13	16	17	14	12	16	11	13		
19日	16	13	14	14	17	15	11	11	11	14	14	13
20日	16	14	16	16	13	13	13	13	15	17	12	13
21日	14	15	15	16	16	13	16	13	11	12	12	11
22日	15	13	14	14	14	12	13	13	13	11	15	13
23日	14	17	17	15	15	18	15	12	16	15	13	12
24日	15	16	15	16	12	12	12	13	13	13	17	15
25日	15	15	15	16	15	15	16	17	9	12		
26日	16	13	16	13	16	13	11	11	14	12	13	14
27日	15	14	15	14	15	14	15	12	14	15	15	13
28日	14	15	15	15	15	13	15	14	8	15	15	13
29日	15	12	14	14	14	14	14	15	13	12	14	14
30日	13	16	16	14	14	15	14	12	14	14	14	12
31日	14	14	14	15	14	14	12	12	14	14	14	15
月平均	370	366	381	393	385	361	357	336	341	320	308	346
合計	4264	4264	4264	4264	4264	4264	4264	4264	4264	4264	4264	4264

延べ人数	月別稼働率	利用定員数
4月 370	82%	18人
5月 366	75%	18人
6月 381	81%	18人
7月 393	84%	18人
8月 385	79%	18人
9月 361	77%	18人
10月 357	76%	18人
11月 336	72%	18人
12月 341	73%	18人
1月 320	74%	18人
2月 308	71%	18人
3月 346	71%	18人



4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月



4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

平成 29 年度 明翔苑居宅介護支援事業所報告書

I. 基本方針について

利用者様が可能な限り住み慣れた居宅において在宅生活が続けられるように支援を行いました。

II. サービス目標について

指定居宅介護事業所としての法令遵守と個人情報保護に努めて、家族や利用者様の相談、要望にも迅速な対応を行った。

III. 研修参加目標について

各種会議、専門研修会に積極的に参加して、制度の動向や福祉情勢の把握に努めて知識を深めることができた。

IV. 地域目標について

地域包括支援センター、民生委員、福祉推進員等と連携を図れるように活動して、地域の方々との顔の見える関係づくりに努めて、連携を図る事ができた。

V. 業務目標について

適切なアセスメントを行い、介護度の区分変更申請が必要な利用者には適切に区分変更申請の手続きを行うことができた。

利用者及び家族との面談の時間を確保して、適切なニーズの把握と信頼関係の構築に努め、利用者及び家族からの相談に対しては、親切丁寧に対応させていただくことができた。

重点目標について

利用者の確保については 29 年度当初 50 名（介護 33 名、支援 17 名）でありましたが、死亡された方が 7 名、入所された方が 4 名、引き継ぎ 2 名、自立 2 名になりました。

新規獲得も行いながら、3 月末の利用者は介護 32 名、支援 10 名で 42 名の利用者を担当させていただいております。今後は利用者のモニタリングを行い、サービス調整や緊急時の対応等、事業所や主治医と連携を取りながら行っていきたいと思っております。

当初 50 名－（死亡 7 名、入所 4 名、引き継ぎ 2 名、自立 2 名）＝35 名

3 月 35 名＋新規利用者 7 名＝42 名（介護 32 名、支援 10 名）

平成 29 年度利用者総数 581 名（支援 162 名、介護 419 名）

報告者 石橋 弘子

以上

平成 29 年度 栄養課事業報告

1. 栄養ケアマネジメントの実施

定期的に栄養ケア計画の見直しを行いながら算定を行っている。

担当者会議などで各職員からの情報・意見交換を行ない、利用者一人ひとりに合わせた計画を実施できたと思う。新入所の方については、入所後 1～2 週間後から栄養マネジメントを開始し、その後も定期的な見直しを実施している。

2. 経口維持加算（I）の算定

前年度に続き、対象者の経口維持計画を作成し、算定を行った。

3 月末においては 20 名が対象となっており、算定を継続する。

3. 行事食、変わり献立の実施

普段の食事の中では、週に 1～2 回程度、変わりご飯や麺類の提供を行った。

季節感のある献立になるよう旬のものを取り入れたり、お弁当や敬老会のお祝い膳など行事にちなんだ食事提供もできた。行事の際は食事にカードやお品書きを添え、雰囲気作りにも力を入れた。また、クリスマスの鍋パーティーや新年会での魚の解体ショーを実施し利用者様により楽しんでいただくことができたと思う。

4. 安心、安全な食事提供の実施

毎月 1 回、厨房委託業者と施設職員が集まり、意見交換や試食会を行った。

都度、利用者や職員から聞き取り調査などを行ない、意見を献立に反映させ、食事内容の改善もできた。食事の彩りや香り、量などについては今後も検討していく必要がある。

5. 経費節減について

トロミ剤については、使用状況の確認を行った。昨年より、使用者が減少したため使用量も減少した。

6. 地域への貢献、認知

10 月の古江地区文化祭や 3 月の古曾志公園春祭りに参加し地域交流や貢献ができた。

また、デイサービスの米は（株）カンドーファームのつや姫を使用、野菜や果物などは下古志ファームからスポット的に地元の物を使用するなど、地産地消を心がけた。

別紙 1 行事食年間実施表

	実施献立
4月	しじみご飯、丼物、麺類など
5月	こどもの日行事食、変わりご飯、麺類など
6月	変わりご飯、麺類など
7月	夏祭り、七夕の行事食、うな丼、麺類など
8月	夏野菜カレー、冷やし中華、ぶっかけそうめんなど
9月	敬老会お祝い膳、おはぎ、変わりご飯、麺類など
10月	栗ごはん、変わりご飯、麺類など
11月	鍋パーティー、変わりご飯、麺類など
12月	クリスマス鍋パーティー、そば打ち、年越しそばなど
1月	七草粥、マグロの解体ショーなど
2月	恵方巻き、変わりご飯、麺類など
3月	ひな祭り献立 ひなまつりおやつバイキング、おはぎ、変わりご飯、麺類など

平成 29 年度事業報告（訪問看護ステーション準備室）

当初は大輪町団地（仮）において平成 31 年に訪問看護ステーションの開設予定であったが、新規開設は明翔苑施設内で行うことになった。それにより、多少計画の修正が求められた。しかし、今年度中に訪問看護ステーションの管理者が決定した事は、何よりの進歩であったと考えている。年度後半は管理者と話し合いを繰り返す機会が持てて、有意義であった。

1、地域への PR

大輪町団地（仮）の建設が遅れて平成 32 年に立ち上げとなったため、説明会への参加・地域への行事参加は出来ていない。営業に出掛ける職員に同伴して、訪問看護ステーション開発準備室の名刺配布に努めた。次年度は明翔苑の出前講座にも同伴して、対象者や地域を拡大した PR を行う予定にしている。

10 月 23 日、施設長・管理者と共に、三刀屋町の訪問看護ステーションの施設見学を行ない、立ち上げから現在までの過程や地域との連携の取り方などについての話を伺った。地域のニーズにあった訪問看護ステーションの強みや地域を支えていると言う信念やパワー・メディアへの発信力の効果など、多くの刺激を受けた。

2、ハード面の整備

看護手順の大よその項目は作製できた。看護基準の作成・マニュアルの作成は、来年度就任の管理者に相談しながら作製した方が効率的と考え、次年度に引き継ぐ。（看護手順についても、管理者による見直しが必要である）

平成 31 年度開設に向けての必要備品を管理者と検討して、予算計上を行った。

3、ソフト面の整備

管理者は決定したが、スタッフ最低 1.5 人確保も必須である。ハローワーク、就職説明会、看護協会などを利用したが、次年度も更に継続していく。

研修会は平成 29 年度訪問看護師養成講習会<ステップ 1>公開講座 5 回のうち、3 回は参加出来た。ここでも看護師募集の声かけを行なっている。

平成 30 年 5 月に行なわれる島根県看護協会研修「介護・診療報酬の同時改定研修会に参加予定にしている。

松江市内の医療機関（総合病院・診療所・開業医など）、薬局、介護施設、訪問看護ステーションのマッピング作製や、訪問看護師・訪問看護ステーションなどの自己学習を行った。

以上

平成 29 年度事業報告（スキルアップコーチ）

1、研修会の企画・開催について

介護力向上委員会の一員として、以下の研修会の企画運営に携わった。

①8月16日 皮膚トラブル

研修後アンケートによると「内容が良かった」という反応がほとんどであったが、以後もスキン-ケアの事例は見られている。今年度は研修会で知識を学ぶ年として、現場での継続的な実践に活かす方法は次年度の課題に繋げたい。

②10月18日 救急法

心肺蘇生術と AED・搬送までを 1 時間で実施したので、参加者にとっては内容が多く負担であったと反省している。急変時のケースを想定しながら（窒息なども）、全職員を対象にシミュレーションを定期的に行っていく必要がある。

③12月13日 看取り

昨年の日赤のポスター展示の資料を研修会にと編集した。看護より「看取りのシナリオを決めて欲しい」という意見があり、認識の統一が求められている。

④マニュアル作成

インフルエンザ・ノロウイルスのマニュアルを作製・配布した。今年度使用して問題点を抽出し、次年度は見直しを検討する予定にしている。発熱時の対応アルゴリズムを作製・配布して、観察項目・報告内容・対応の統一化を図った。

2、当施設の看護職員の新評価表の作成

わかさキャリアコンシェルジュによる E-WORK システムが導入決定となり、8月・9月の説明会を経て、今年度はテスト期間として 12 月に看護・介護部門で入力を行った。看護部門の 1 次評価・2 次評価を行い、疑問点や今後の課題を提出した。初めてのことであり、評価者・被評価者共に戸惑いがあった。講師からの説明は受けていたが、事前に看護の中で共通認識をしておけば良かったと反省した。（コメント入力の必要性やレベル毎に求められている能力の違い、未達成項目から目標管理に繋げるなど）

実際に入力して見ると

- ①客観的な評価するためには、被評価者のレベルの評価項目を念頭において、日頃から実践場面を意識して見ておく必要がある。
- ②評価者は被評価者のコメントに左右されること無く、レベルの軸がぶれないようにしておく。
- ③定められている評価項目について、評価者・被評価者に共通理解をしておく事が重要である。

などがあり、ある程度の予測はしていたがやはり準備不足を痛感した。本人・1 次評価の入力がなく、2 次評価のコメントが入力しにくいこともわかった。初めてで慣れていない・時間が無いという指摘もあり、次年度は入力に向けて事前の準備や体制を考えていく必要がある。

以上

平成29年度 研修実績(施設外)

参加日	職種	主催	研修内容
5月10日(水) ～12(金)	看護主任	県社協	平成29年度 権利擁護推進員養成研修(後期:9月7日)
5月12日(水)	居宅ケアマネ	県社協	平成29年度 島根県介護支援専門員協会通常総会研修
5月15日(月)	特養課長	県社協	平成29年度 障害福祉と介護保険の移行支援研修
5月17日(水)	リーダー	県社協	平成29年度 認知症介護実践研修「実践者研修(第1回)」 前期:5/17～18 後期:5/23～25 まとめ:8/4
5月30日(火)	施設長	県社協	平成29年度キャリアパス導入支援研修 I
5月31日(水) ～6月1日(木)	FL	県社協	平成29年福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程【チームリーダーコース】
6月10日(土)	施設長・課長・主任	松北地区包括ケア検討会	平成29年度第1回 松北地区地域包括ケア検討会
7月 3日(月)	特養・在宅課長	島根県社会福祉法人経営者協議会	平成29年度島根県福祉法人経営者協議会総会及びセミナー
7月 4日(火)	理事 経理課長	松江市監査指導課	平成29年度社会福祉法人指導監査説明会
7月5日(水)～ 6日(木)	リーダー	県社協	平成29年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程【中堅職員コース】
7月 5日(水)	事務	県社協	平成29年度 労務管理研修
7月12日(水)	特養・在宅課長 居宅主任	市社協・松江介護支援専門員協会	松江地域介護支援専門員協会、松江圏域老人福祉協議会合同研修会

7月12日(水) ～13日(木)	リーダー	県社協	平成29年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程【中堅職員コース】
7月20日(木) ～21日(金)	在宅課長	県社協	平成29年度コミュニケーションワークショップ実践基礎研修 後期:11月1日(水)
7月25日(火)	事務員	県社協	平成29年度福祉法人会計実務研修【初級コース】
7月26日～	フリアー リーダー	県社協	平成29年度 認知症実践研修「実践リーダー研修」
7月25日(火) ～26日(水)	介護士	県社協	平成29年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程【初心者コース】
7月26日(水)	主任・事務	県老施協	平成29年度 介護業務の効率化を考える研修会
8月10日(木)	施設長・主任・ FL	島根県社会福祉法人青年 会	平成29年度第1回 総会・研修会
9月12日(土)	リーダー	県社協	平成29年度「中堅職員スキルアップ研修Ⅰ」
9月12日 (火)・13日(水)	施設長・課長・ FL・介護職員 管理栄養士	介護職員資質向上促進事 業実施機関	貴法人 あたり前のも暮らしサポートセンター視察
9月14日 (木)・15日 (金)～	施設長	一般社団法人地域ケア 総合研究所	医療と介護の報酬体系及び同時改定を学ぶ寺小屋(全4回)
9月14日 (木)・15日 (金)～	介護士・看護師	全国老施協	第49回 中国地区老人福祉施設研修大会
9月25日(月)	総務	島根労働局雇用環境・均等 室	改正育児・介護休業法、無期転換ルール等説明会相談会

9月27日(水)	特養課長	介護労働安定センター	個々のスタッフに合わせたアプローチ
10月1日(日)～	主任	中央福祉学院	社会福祉主事資格認定通信課程
10月2日(月)	介護士	県社協	平成29年度 認知症実践研修[実践者研修(第Ⅲ回)]前期:10月2日(月)～3(火)後期10月10日(火)～12日(木)まとめ:12月22日(金)
10月上旬～11月28日(火)	FL・介護職員	介護職員資質向上促進事業実施機関	評価者(アセッサ)講習
10月16日(月)	経理課長 第三者委員	島根県運営適正委員会	平成29年度 福祉サービス苦情解決研修会
10月18日(水)～20日(金)	施設長	全国社会福祉法人経営青年会	全国社会福祉法人経営青年会全国大会
10月21日(土)	課長・主任	松北地区地域包括ケア検討会	熊本地震災害に学ぶ福祉避難所の役割について
10月25日(水)	特養課長	県社協	平成29年度 人材育成研修会
10月26日(木)・30日(月)	施設長	島根県社会福祉法人経営者協議会	社会福祉法人地域公益活動推進セミナー・高齢者福祉経営セミナー
10月26日(木)・30日(月)	施設長	島根県社会福祉法人経営者協議会	社会福祉法人地域公益活動推進セミナー・高齢者福祉経営セミナー
10月26日(木)27日(金)	介護士	介護福祉士会	介護福祉士基本研修(11月26・27)
10月28日(土)	課長・主任 看護	松江赤十字病院	第11回地域医療従事者スキルアップセミナー「誤嚥性肺炎」

10月30日 (月)	施設長	県社会福祉法人経営者協 議会	高齢者福祉サービス経営セミナー
11月7日(火)	FL	松江市消防本部	応急手当普及員再講習
11月8日(水)	介護主任・FL・ 介護士	県老施協	第28回島根県老人福祉施設協議会研修大会「確かめよう！想いを実現する介護」
11月14日 (火)	介護主任 ケアマネ	県老施協	「実例に学ぶ！明日からできる職場変革」
11月14日(火)	施設長	県社協	採用活動向上支援セミナー：2回シリーズ(H30年3月3日)
11月15日 (水)	介護士	県社協	平成29年度 新任介護職員教育担当者育成研修
11月19日(日)	居宅主任	島根県健康福祉部高齢者 福祉課	療養病棟の転換にかかる講演会
11月22日 (水)	事務員	日本労働安全衛生 コンサルタント会	職場の受動喫煙防止対策に係る説明会
11月26日 (日)	管理栄養士 特養課長 居宅主任	島根県医師会館	平成29年度 経口摂取支援研修会
12月6日(水)	事務員	高齢・障害・求人者雇用支 援機構島根支店	平成29年 高齢者・障害者雇用に関する助成金説明会
12月14日 (木)(3回目)	施設長 FL	一般社団法人地域ケア 総合研究所	医療と介護の報酬体系及び同時改定を学ぶ寺小屋(4回目 3月9日(木))
12月14日(木)	特養課長 主任	島根県 (健康福祉部高齢者福祉 課)	平成29年度 キャラバン・メイト養成研修

1月10日(水)	介護職員	県社協	平成29年度認知症実践者研修「実践者研修(第V回)」前期:1月10日～12日 後期:1月17日～18日 中間評価:2月2日 まとめ3月23日
1月13日(土)	施設長	社会福祉協議会	外出が困難な人の支援を考えるセミナー
1月18日(木)	施設長・主任・ FL	県社会福祉法人経営者協議会	平成29年度第3回研修会(D-Freeの説明会)
2月5日(月)	施設長	県社会福祉法人経営者協議会	平成29年度「社会福祉法人経営セミナーⅡ」
2月10日(土)	施設長	松江市	地域包括ケアシステム構築シンポジウム
2月19日(月)	経理課長 第三者委員	島根県健康福祉部地域福祉課	社会福祉法人事務局研修会・小規模社会福祉法人研修会
3月4日(日)	施設長	社会福祉法人・県社協	第2回採用活動向上支援セミナー
3月5日(月)	在宅課長 特養課長	県老施協	平成29年度島根県老人福祉施設協議会第2回総会
3月5日(月)	施設長 理事	県社会福祉協議会	平成29年度社会福祉法人役員研修
3月17日(土)	FL	L.L.C.地域ケア研究所	褥瘡ケアの基本とスキンケアの実際・認知症を持つ方への排泄ケア
3月29日(木)	特養課長 主任	松江市健康子育て部健康 長寿課地域包括ケア推進係	平成29年度キャラバン・メイトフォローアップ研修

平成29年度 研修実績(施設内)

研修日	講師	内容
5月17日(水)	歯科医院Dr(H24年度研修から)	口腔ケアの基礎知識
6月21日(水)	看護職員	感染症研修・ノロウイルス対策 6/24・6/26・7/1
7月 5日(水)・14日(金)	RX組担当者	お年寄りを元気にする介護技術
7月19日(水)	課長・主任・L	認知症
8月16日(水)	松江赤十字病院 皮膚・排泄ケア認定看護師	皮膚トラブルの予防とケア
9月25日(水)・26日(木)	わかさキャリアコンシェルジュ	E-WORKを活用したキャリアパス構築(課長・主任・リーダー)
10月18日(水)	主任・FL・看護師	救命講習・AED・担架搬送
10月24日(火)・25日(木)	わかさキャリアコンシェルジュ	E-WORKを活用したキャリアパス構築(一般職員)
11月15日(水)	看護師・衛生委員会	感染症研修・インフルエンザ対策(12月1日)
12月13日(水)	課長・看護師	看取りケア
1月17日(水)	松江市社会福祉協議会	権利擁護
3月14日(水)	衛生委員会	腰痛予防
3月28日(水)	各事業所	自立支援への取り組み

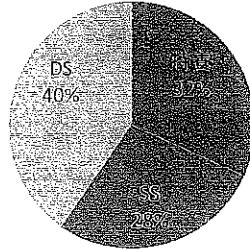
平成29年度 介護体験等受け入れ

受け入れ日	受け入れ者	内容
6月5日(月)	1名	平成29年度認知症介護実践者研修『実践者研修』における他施設実習
7月11日(火)	総合学科 福祉サーブス系列 3年生 33名	見学・体験実習
8月7日(月)～9日(水)	1名	インターンシップ
9月4日(月)～8日(金)	1名	島根大学生 福祉体験
9月19日(火)～22日(金)	湖北中学校	湖北中学校 福祉体験
10月6日(金)	古江小学校	古江小学校6年生交流会
10月12日(木)	研修医	平成29年度医師臨床研修
10月24日(火)	1名	平成29年度認知症介護実践者研修『実践者研修』における他施設実習
1月12日(金)～26日(金)	1名	実践者研修
1月30日(火)	1名	平成29年度認知症介護実践者研修『実践者研修』における他施設実習

平成29年度 豊心会 施設内 ヒヤリ・ハット集計表

利用者サービス発生状況

利用者サービス	ヒヤリ・ハット
特養	33
SS	29
DS	42
合計	104

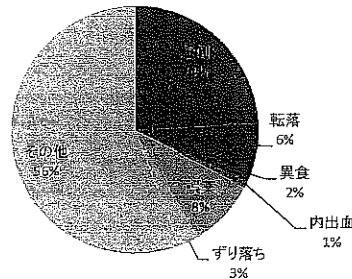


・利用者サービス別の発生状況を見ると、各サービスの発生状況は、デイサービスが最も多い。特養は、規模も大きく、生活の場であり、事故件数も多い。事故を減らす為にもヒヤリ・ハットを書いて、認識を共有し、傾向や原因を明らかにして、対策を取る必要がある。

そこで、発生区分(危険予知)でのヒヤリ・ハットの内訳を詳しくみていきましょう。

発生区分(危険予知)状況

発生区分	ヒヤリ・ハット
転倒	25
転落	6
皮膚剥離	
異食	2
内出血	1
誤薬	9
すり落ち	3
その他	58
合計	104

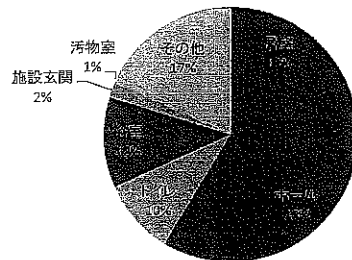


・発生区分状況を見ると、歩行中や立ち上がりに際しての転倒危険予知のヒヤリ・ハットが最も多い。

さらに、発生場所でのヒヤリ・ハットの内訳を詳しくみていきましょう。

発生場所状況

発生場所	ヒヤリ・ハット
居室	19
ホール	42
トイレ	10
浴室	12
機能訓練室	
施設玄関	2
汚物室	1
その他	18
合計	104

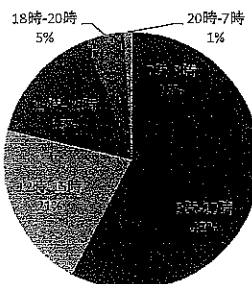


・発生場所状況を見ると、ホールでのヒヤリ・ハットが最も多い。入居者等が集まる場所での発見が多い。

最後に、発生時間でのヒヤリ・ハットの内訳を詳しくみていきましょう。

発生時間状況

発生時間	ヒヤリ・ハット
7時-9時	15
9時-12時	45
12時-15時	22
15時-18時	16
18時-20時	5
20時-7時	1
合計	104

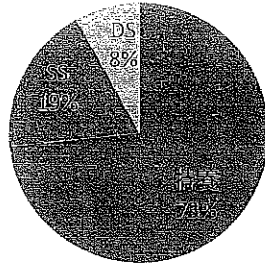


・発生時間状況を見ると、9時～12時がヒヤリ・ハットが多い。入居者等がホールで集まる時間帯が最も多い。

平成29年度 豊心会 施設内/事故報告集計表

利用サービス発生状況

利用サービス	事故報告
特養	99
SS	25
DS	11
合計	135

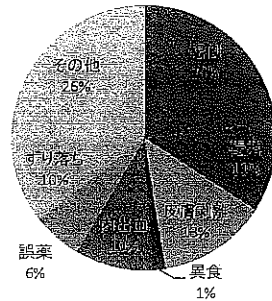


・利用サービス別の発生状況を見ると、特養が最も多く事故が発生している。規模等もあるが、生活の場であり、危機回避のための行動も年々低下し、転倒等のリスクも高くなっている。

そこで、発生区分での事故報告の内訳を詳しくみていきましょう。

発生区分状況

発生区分	事故報告
転倒	31
転落	15
皮膚剥離	18
異食	2
内出血	13
誤薬	8
ずり落ち	13
その他	35
合計	135

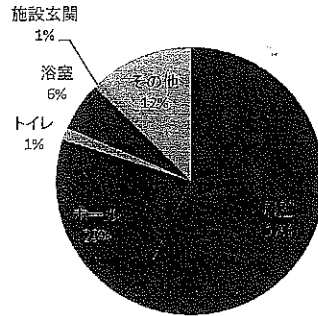


・発生区分状況を見ると、皮膚を傷つけたり、ベッドや車椅子などからの転落事故や歩行中や立ち上がりに際しての転倒事故が最も多い。

さらに、発生場所での事故報告の内訳を詳しくみていきましょう。

発生場所状況

発生場所	事故報告
居室	77
ホール	31
トイレ	2
浴室	8
機能訓練室	
施設玄関	1
汚物室	
その他	16
合計	135

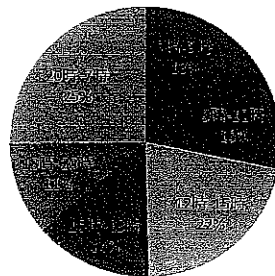


・発生場所状況を見ると、居室での事故が最も多い。職員のあまり目の届かない場所で発生することが多い。

最後に、発生時間での事故報告の内訳を詳しくみていきましょう。

発生時間状況

発生時間	事故報告書
7時-9時	18
9時-12時	20
12時-15時	29
15時-18時	19
18時-20時	15
20時-7時	34
合計	135



・発生時間状況を見ると、夜間が事故発生率が高い。夜間の発生は、一人で対応しているため、多くなっている。